

日本医科大学(前期) 英語

2026年 2月 2日実施

[I]

問 1 [1] chosen [2] engage [3] acknowledges [4] dealing [5] threw

問 2 (ア) → allow, (カ) → equivalent

問 3 (自己効力感を構成する 3 要素である自信・楽観主義・主体性について,) 車の運転のよ
うな身近な例を用いて説明がなされているのが読み取れるから。

問 4 (1) The statement means that you are expecting to have a fruitful harvest in the
garden.

(2) (例 1) A satisfactory harvest cannot be expected. The reason is that, due to an overly
optimistic attitude stemming from the current absence of weeds, practical
measures against weeds and pests are being neglected.

(例 2) Weeds will grow all over the garden because you only think positively and
do not take any physical action to remove them.

問 5 記号 : (う)

理由 : PART 2 の第 4 段落で, 楽観的になるだけでなくむしろ現実主義を適度に織り交ぜ
ることで自信過剰になることを防げると肯定的と述べられているから。

記号 : (え)

理由 : PART 3 の最終段落で, サンディのように日常から意図的な方向転換を経験するこ
とで, 予期せぬ逆境に立ち向かうための資質を身につけている場合もあると述べら
れているから。

問 6 (1) b (2) a (3) b (4) b (5) b

問 7 b, d

問 8 a, d

問 9 b

問 10 a

問 11 c

問 12 b

問 13 順に b, d, a

[解説]

問 1 [1] : choose to V で「～することを選ぶ」。過去完了形なので chosen とする。

[2] : engage in～で「～に身を置く」という意味である。to 不定詞の後ろなのでそのまま
でよい。

[3] : 非制限用法の関係代名詞に続く部分である。「現実主義とは, ～ということを認める
ことだ」という文脈であり, 三単現 s を付ける。

[4] : deal with～で「～に対処する」。in に続くので, V-ing 形にして, helpful in dealing
with adversity「逆境に対処するのに役立つ」となる。

【5】:「人生が彼女に投げかけた変化」ということで、**the pivots that life threw at her** とする。主節が過去形となっているので、時制を一致させて **threw** と過去形にする必要がある。

問 2 (ア) **Not only does it** ～という倒置形から、疑問文の形になるので、**allows** を **allow** と修正すべきである。

(カ) **equivalence** を形容詞 **equivalent** に修正すべきである。**be equivalent to** ～で「～と同等である」という意味を作る。

問 3 Part 2 において、**self-efficacy** を構成する 3 つの資質である **confidence**, **initiative**, **optimism** について、いずれも「自動車の運転」を例に挙げて、それぞれの含意が説明されている。自動車の運転であるから、多くの人にとってそれは、(あ)「身近な日常的な例」とであると言える。

問 4 (1) **a bounty** は「豊富に与えられるもの」が文字通りの意味であるが、ここでの文脈では、ガーデニングにおいて楽観主義で臨む場面のことであるから、「豊作を期待する」ことであると判断できる。

(2) しかし、行動を伴わない楽観主義では「収穫時において」落胆するであろうというのが下線部を含む文の意味である。つまり、残念な収穫しか得られないということである。筆者は、3つの要素について、それぞれが補完し合って効果的であることを強調しており、ここでも現実的な予測や行動が伴わなければうまくいかないということである。したがって、除草や防虫害などの現実的な対応策をとらずに、何もしなければ満足の行かない収穫しか得られないことになると考えられる。

問 5 (う) PART 2 の第 4 段落第 4 文と最終文が解答根拠。この辺りから **creates the same problem** が本文の内容に矛盾すると考えられるので、ここを 2 行程度で記したい。

(え) PART 3 の最終段落第 2 文が解答根拠。ここを読むと選択肢の **only when** という記載が誤りであると分かる。

問 6 (1) PART 1 の第 1 段落第 5 文が解答根拠。高校生対象の試験で、細かい判定は求められないとすれば、内容的にざっくり **true** と判断できるが、細かく読めば、該当文の **... life insurance support for loved ones is automatic**. にある **life insurance** とはあくまで「生命保険」であり **health insurance** とまでは言っていないこと、また仮に先進医療特約などつく・つけることができて、すべての医療費を補償するものとは考えにくい、などの理由から、本校の見解としては **b** を正答とした。

(2) PART 1 の第 1 段落第 6 文に一致。**resume** は「履歴書」という意味もあるので、「経歴を磨く必要がない」となり、一致する。

(3) PART 1 の第 1 段落第 7 文に **promotions follow a clear, predictable path** とあり、これが **promotions happen randomly** と合わない。

(4) PART 1 の第 1 段落だけを見ると一致しているようにも見えるが、第 2 段落第 1 文により、本文の内容に適していないと分かる。**preparing** 以下が解答根拠。

(5) PART 1 の第 1 段落第 2 文に反している。選択肢には little difficulty 「ほぼ難なく」と書かれているが、本文には more difficult than you might think 「皆が考えるよりも大変」とある。

問 7 a : そのような記述は本文中でなされていない。

b : PART 3 の第 4 段落第 3 文から、サンディがシアトルに渡ったことが分かる。さらに、5 文から、わずか数ヶ月以内に彼女自身のコンサルティングファームを始めたことが分かる。

c : PART 3 の第 3 段落第 2～3 文から、学位の取得を断念してコンゴに渡ったことが読み取れるため誤り。

d : PART 3 の第 4 段落第 1 文から、サンディがワシントン DC で生活し、国際的な企業でコンサルタントとして勤務していたことが分かる。

問 8 a : PART 2 の第 6 段落 2 文から、筆者は飛行機を飛ばすことに自信を持っていることが読み取れる。

b : そのような記述は本文中でなされていない。

c : そのような記述は本文中でなされておらず、むしろ今でも飛行機を飛ばすことには関心を持っている様子が窺える。

d : PART 2 の第 6 段落 5 文に、「まずは学ぶ必要がある多くの事があると分かっている」とあるので、飛行機を飛ばすのに筆者の知識は不十分であるとの自覚を筆者が持っていると考えられる。

問 9 本問の下線部がある PART 2 の第 3 段落は、self-efficacy の構成要素である initiative を取り上げ、車の運転との類推で説明を行っている段落である。initiative を starting the engine にたとえ、下線部の「千里の道も一歩から」という老子の言葉を引用し、turning the key を意味すると書いてあるので、老子の言葉が initiative の本質を捕らえていると筆者が信じていることが読み取れる。

問 10 PART 2 の第 5 段落にある下線部は、「それ自体では、これらの特質は不活性である。それらはお互いに結合した時にのみ強力になるのである」という意味である。これらの特質とは、confidence, initiative, optimism をそれぞれ意味していることが本段落から読み取れる。inert 「不活性の、惰性の」や potent 「強力な、効き目のある」の意味を文脈から考えることができたかがポイントとなる。

問 11 本文 PART 3 で、交通事故で病院に担ぎ込まれたサンディのもとに夫が到着した際、サンディは夫の様子を「奇妙に不機嫌そうに見えた (he seemed oddly grumpy)」と感じている。この「oddly grumpy (奇妙に不機嫌な)」という表現は、選択肢 c の「strangely irritated (奇妙にいら立っている)」と意味が合致する。夫は妻が重傷を負っているにもかかわらず、牧場から病院までの 2 時間の道のりが不便であるといった理由から、心配よりも不機嫌さを露わにしていたことが記述から読み取れる。

問 12 a : 筆者はサンディに会ってすぐ彼女を気に入った (I liked her right away) と述べてお

り、記述と一致する。

b : PART 3 冒頭で、サンディは筆者が「この本 (this book) の資料を整理している」際にも、横に座って思考を洗練させる手助けをしていたと記されている。これは筆者の民間への移行後も関係が続いていたことを示しており、「移行の成功後に終了した」とする選択肢 b の内容は本文の記述と矛盾。

c および d : 二人の出会いは、サンディが軍人の民間生活への移行を支援する非営利団体 (The Honor Foundation) で働いていた時であり、そこでコーチとクライアントの関係として始まったことが明記されている。

問 13 PART 1: (b) An Encounter (ある出会い) 筆者が海軍退役時にサンディ・トラビスという人物に出会い、彼女の驚異的な自己効力感 (self-efficacy) を目の当たりにする導入部であるため。

PART 2: (d) Explaining Key Concepts (主要概念の解説) 自己効力感を構成する 3 つの要素 (自信, 主体性, 楽観主義) について、車の運転などの比喩を用いて定義し、それらが組み合わさることの重要性を理論的に説明しているため。

PART 3: (a) A Case Study (事例研究) PART 2 で説明された概念が、サンディの実際の人生における様々な困難 (学業の中断, 見知らぬ地での起業, 交通事故, 離婚, がん治療) でどのように体现されたかを具体例を挙げて実証しているため。

[II]

(解答例 1)

Sandy fell seriously ill while studying biology at university and was forced to give up getting a PhD. However, she viewed having to leave university in this way as a kind of opportunity and engaged in volunteer work in the Congo. Later, while running a consulting firm and living on a farm in Washington with her husband, she suffered another tragedy: she was involved in a car accident on her way home, and her husband subsequently asked for divorce. Yet, within days, she relocated to Seattle, established a more advanced negotiation program, and significantly improved customer satisfaction, achieving the best year ever for her business. In this way, she embodies the qualities of a role model for self-efficacy: confidence that she is always choosing the right path even when caught in unexpected situations, optimism that her efforts will eventually bear fruit, and the initiative to take action on her own. (150 words)

(解答例 2)

One situation is that while living in Washington, D.C. and working as a consultant, Sandy grew burnt out by the relentless travel and an unappealing career path. So, she moved to

Seattle, where she knew almost no one, to launch her own consulting firm. Her action demonstrates self-efficacy as she was driven by her confidence, optimism, and initiative, which are all components of self-efficacy. The other situation involved her having to divorce her husband shortly after a car accident. Despite this adversity, she prepared for her new life, advanced a program that resonated with her clients, and achieved her best business performance yet. These actions also demonstrate self-efficacy, as she was willing to take risks and confront unknown challenges. (119 words)

【解説】

近年の傾向通り、大問 I の読解を前提とした実質的な要旨要約タイプの英作文であった。サンディが “unexpected difficulties” に遭遇した例として本文中に描かれているのは、

- ・極めて侵襲性の高い乳がん罹患したこと
- ・病により博士号の取得を断念し、コンゴでのボランティアに従事したこと
- ・全くの新天地であるシアトルでコンサルティングファームを設立し成功したこと
- ・交通事故に遭ったうえに夫から離婚を切り出されるという二重苦に見舞われながらも、それをも好機と捉えて新たなビジネスに邁進したこと

であり、このうち 2 つを取り上げたうえで「それぞれの状況にどう対処したのか」「なぜそれが彼女の self-efficacy（自己効力感）を説明していると言えるのか」を具体的に説明すればよいと考えられる。

【Ⅲ】

- | | | |
|-------------|-------------|-----------------|
| 問 1 a, c, e | 問 2 a, d, e | 問 3 b, e |
| 問 4 (1) c | (2) d | 問 5 (1) d (2) b |
| 問 6 (1) b | (2) a | 問 7 (1) c (2) b |
| 問 8 (1) b | (2) c | |

【解説】

- 問 1 第 1 アクセントの位置は、a：第 1 音節、b：第 3 音節、c：第 1 音節、d：第 4 音節、e：第 1 音節にある。
- 問 2 第 1 アクセントの位置は、a：第 2 音節、b：第 3 音節、c：第 3 音節、d：第 2 音節、e：第 2 音節にある。
- 問 3 allow の下線部の発音は [au] であり、それを含むのは boundaries と proudly である。
- 問 4 expedition「遠征、探検」、expiration「満了、失効」、exploitation「(利己的) 利用、搾取」、exploration「探検、探索」、explosion「爆発」
- 問 5 simulate「～を擬似的に作り出す」、speculate「(十分な知識・根拠がなく) 推測する、考えを巡らせる」、stimulate「～を刺激する」、subordinate「～を下位に置く、軽視する」、

substitute「～を代用する」

問6 cling「しがみつく、すがりつく」、flush「紅潮する」、grind「～をすりつぶす」、sip「(飲み物を)ちびちび飲む」、startle「～を驚かせる」

問7 empirical「実証に基づいた」、intact「無傷の」、integral「不可欠な」、sane「正気の」、vertical「垂直な」

問8 clan「一族、一門」、descent「下降、転落、墮落」、gravel「小石」、peril「危機」、oath「誓い」

【総評】

大問構成・出題形式ともに概ね昨年度と同一。記述式問題では昨年度に続き、日本語論述のみならず、本文の記述から筆者が示したいことを英語で論述するタイプの問いが2問出題された。また、大問Ⅱの自由英作文も事実上の要旨要約問題であり、本文の正しい読解を前提とする英作文の出題という近年の性格を踏襲するものであった。しかし、本文のトピック自体は例年に比べると抽象度が低く、難単語の部類もほとんどなく、サクサク読み進めることのできるものであっただろう。マーク式問題では、例年通り Choose ALL 型の問いが2問出題されたが、正誤の判断は比較的容易である。一次通過ラインは、他科目との兼ね合いもあるが65%程度か。

昭和医科大学医学部Ⅱ期模試 2026.2.23^(月)

科目 英/数/化/生/物 申込締切 2月19日(木) 15:00
会場 東京/大阪/福岡

聖マリアンナ医科大学[後期]模試 2026.2.18^(水)

科目 英/数/化/生/物 申込締切 2月14日(土) 15:00
会場 東京/大阪/福岡

料金 8,800円(税込)

※内容は変更になる場合がございます。最新の情報はホームページよりご確認ください。↗

医大別直前講習会 2025-2026

後期・Ⅱ期

- 獨協医科大学
- 聖マリアンナ医科大学
- 日本大学
- 埼玉医科大学
- 昭和医科大学
- 日本医科大学

◆各講座の時間割・受講料・会場についてはHPでご確認ください。↗

本解答速報の内容に関するお問合せは



医学部専門予備校

YMS

☎ 03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>
東京都渋谷区代々木 1-37-14

医学部進学予備校

メビオ

☎ 0120-146-156
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校

英進館メビオ 福岡校

☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録



LINE 登録



26年度解答速報はメルマガ登録またはLINE友だち追加で全科目を閲覧